

「カムリシロムク飛び交う里」を目指す インドネシア・バリ島西部の 地元住民・行政・企業の協働による、 自然と経済の共生した地域づくり

〒231-0003
神奈川県横浜市中区北仲通3-33
関内フューチャーセンター内
電話:050-3754-5970
E-mail:welcome@i-i-net.org
http://i-i-net.org/



ひろげる助成

1年目

実践



ラバハンランでのカムリシロムク放鳥式

村でのカムリシロムクの放鳥数	16羽
観光振興の横断的ワークショップ	35人
今年度計画の達成度	70%
活動の全体目標に対する達成度	30%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

国立公園事務所長が6か月近く空席となり、トップ不在の中で公園職員たちは周辺村住民や関係団体への働きかけを粘り強く続けた。

■ 工夫した点

インドネシア政府の施策として国立公園協働管理のモデル形成が指示され、当該プロジェクトがその一環となるべく働きかけた。

課題

インドネシア・西部バリ国立公園周辺地域では、森林破壊や密猟を減らすため、「カムリシロムクの翔び交う里」を魅力の中心としたエコツーリズムの振興が課題となっている。

目標

西部バリ国立公園の周辺村でカムリシロムクの生息地が保全され、住民グループと行政や企業との協働によるエコツーリズムの振興を通じて住民の生計が向上する。

活動内容と成果

国立公園職員による村人への寄り添い活動を支援。その結果、●カムリシロムク飼育下繁殖に取り組む住民グループが4村で結成され、既に16羽が放鳥された。●生息地を守るパトロール活動を住民グループが開始した。●国

立公園近隣10村が「カムリシロムク保護宣言」を出した。●観光振興に向けて、周辺6村と2県の行政・住民・企業らによる協働ワークショップが開催された。●ギリマヌク村では、多様な関係者による観光振興のためのコミュニケーションフォーラムが発足し、特にゴミ問題の解決に向けて取り組みを開始した。



住民と国立公園の協働でクリーンアップ活動

今後の展望

村人によるカムリシロムクの野生復帰・生息地保全の取組みを引き続き支援するとともに、村横断のエコツーリズム振興に向け、県行政や企業も巻き込む。日本で同様の取組みをしている地域との学びあも進める。